

Music

ジミー・バフェットとフローズンマルガリータ

Text & Photos: George Cockle
文・写真/ジョージ・カックル



いまから約30年前。日本に住んでた俺は、アメリカ暮らしを考えていた。そしてどうせならその途中、ハワイに寄ってちょっとサーフィンしながら金を稼ごうと思った。その頃はサーファーに向いている仕事があったんだ、それはベディキャブ。自転車で引く人力車、いわゆるリンクタク。毎日、朝8時頃から夕方5時頃までリンクタクを借りて、自分で営業。ハワイは雨が降ってもすぐ止むから、俺はいつも屋根とギヤなしの6ドルのリンクタクを借りていた。ギヤなしでも、仕事場はワイキキ、遠くてもアラモアナで、坂はひとつしかない。坂といってもアラモアナの橋だから、たいした坂じゃないよね。

なぜこの仕事がサーファーにぴったりかという、一日借りたら、儲けたお金は全部自分のものになるし、サーフィンも自由にできる、それに体力作りにもなるからだ。朝、ベディキャブを借りて2、3人お客を乗せたら、海に行くとサーフィンができる。ちょっとサーフィンしたら、また何時間か仕事すればいい。一日100ドルぐらいにはなったよ。当時にしてはわりといいお金だった。

もちろん音楽もある。仕事が終わると、他のドライバー達とよく酒を飲みに行ったよ。ピザ屋やホテルのバーに行って、よく

飲んだのはテキーラベースのフローズンマルガリータ。その酒は一時アメリカで流行ったんだけど、それはジミー・バフェットが「マルガリータビル」というヒット曲を出してからだ。最初、俺は彼のその曲しか知らなかったんだけど、周りのドライバーたちが他の曲も教えてくれた。すると、どのバーに行っても流しのミュージシャン達は彼の曲をカバーしていたことに気付いた。この曲も、この曲も、みんなジミー？ そんな感じ。おまけにジミーの曲が始まると、みんな歌い始める。それから俺は彼の曲に目覚めた。最近ではハワイのアーティスト、カウアウ・クレーターボーイズやパロロ、ジャック・ジョンソン、日本在住のカワイハエもカバーしている。

テーマは暖かなパラダイスでの暮らしがほとんどだけど、サメやチーズバーガー、海賊のことをジョークたっぷりに交えた詩とかもある。俺は1度アメリカでライブに行くチャンスがあったけど、バンドは全員、裸足。お客は全員アロハシャツで全曲知っているから、みんな歌っている。すごい人気だ。ツアーをやると、全部スタジアムなのにソールドアウト。アルバムはインディーズなのに、チャートではナンバー1。

彼はCDだけじゃなくて、いろんなところに手を広げている。レストラン、洋服、ラジオ、本……。アメリカの本のチャートは確か、NYタイムスのチャートだ。そして、フィクションとノンフィクションのチャートで両方ナンバー1をとったのは今まで、3人しかない。それはジョン・スタインベック、アーネスト・ヘミングウェイとジミー・バフェット。すごい顔ぶれだよ。おまけに、音楽のチャートでナンバー1なのは彼だけだ。

それなのに、日本では発売されていない。でも輸入レコード店にはあるよ。今ワイキキに行くと彼のレストランがビーチコーマーにもある。俺が履いているデッキシューズも彼のブランドだ。

どんなところでも、彼の曲を聴くと気持ち暖かくなる。アメリカ人が行くリゾート地、メキシコやサンタモニカ、フロリダ・キーウエストなんかでは、よく彼の曲がかかっているよ。



ジョージ・カックル ●60～70年代のロックに精通し、ラジオ・パーソナリティとしてインターFMや東京FMで活躍中。鎌倉出身・在住。波乗り歴38年の親父サーファー。
www.whatsupmusicinc.com